

講義名	研究演習（全学部）		
講義コード	15206	授業形態	
担当教員	川合 宏之	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 5時限
		シラバサック・コード	SEM250

学部・学科	演習分野
経営学科・マーケティング学科 経済学科・経済情報学科	教育学・キャリア教育

概要説明

ゼミ全体の活動本演習は、「なすこと」によって学ぶ（Learning by doing）、すなわち実践活動を教育学の根幹に据えています。具体的には、小学校での学習支援や遊びの指導、高校生との交流を通じた高大連携プロジェクトなど、学校教育現場における教育的活動に主体的に参画します。

現行の学習指導要領で強調されている「社会に開かれた教育課程」の理念に基づき、学校・地域・大学が連携するプラットフォームの中で活動を展開します。キャリア教育の視点から、児童生徒の成長を支えるプロセスを体験的に理解すると同時に、学生自身が他者と協働して課題を解決する力、および自身のキャリア形成に必要な資質・能力（コミュニケーション力、企画力、創造力）を養うことを目的とします。

学年ごとの活動

「研究演習」実践活動をベースに、現場での観察とリフレクション（省察）を繰り返します。自分の考えを言語化して表現し、他者の多様な視点に触れることで、教育支援者としての基礎的な態度を形成します。

「研究演習」実践活動での気づきを「キャリア教育」や「能力開発」といった理論と結びつけ、自分なりの研究テーマを探索します。文献購読を通じて議論を深め、フィールドワークの成果を事業構想や研究計画へと昇華させます。

「研究演習」卒業研究これまでの学びの集大成として取り組みます。卒業研究では、個別指導を通じて2万字以上の学術論文を執筆します。一方、「研究演習」では、実践活動の成果を論理的に体系化した総括レポートを作成します。いずれも、就職活動を含めたキャリア形成支援と運動させ、個別指導を重視して進めます。

主な卒業論文のタイトル

「高等学校と大学との接続における一人一人の能力を伸ばすための連携」
「一人一人の能力を伸ばすための、高大連携の促進に向けて」
「『生きた学び』を体感することの大切さ」
「高等学校と大学の連携強化の在り方」
「『ナナメの関係』による理論の実践と考察」
「高校生に対して、大学レベルの教育研究に触れる機会の促進」
「大学生メンターの役割」

教員からの要望

本演習は実践活動を重視しているため、以下のことを学生に求めています。

企画を学生自ら立案・実行し、またそうした活動を他者に向けて情報発信できること。
活動を進める場合は、ほとんどがグループでの協働作業となるため協働性を大切にできること。
ゼミの時間以外で活動に費やす時間も多いため、意欲的・積極的に取り組めること。

選考方法

面接、演習申込書、成績（単位取得状況）などによって、総合的に判断します。

評価方法

出席はもちろん、ゼミへの取り組みの態度や成果、貢献度などによって総合的に評価します。

到達目標・成果物

研究演習（2年次）
<到達目標>
・キャリア教育の基礎概念を理解し、小学校・高校での連携活動を通じて、児童・生徒の変容を観察・記録するスキルを習得する。
・フィールドワークにおける実践活動を「学びのプロセス」として捉え、自己の職業観や社会人基礎力の現状を客観的に把握できるようになる。
・多様なステークホルダー（教員、高校生、児童等）との交流を通じ、教育現場における対人支援や調整の基礎能力を養う。

<成果物>
地域連携・高大連携活動の参加記録、およびキャリア教育の視点をういた活動振り返りレポート

研究演習（3年次）
<到達目標>

教員英字氏名	研究室
Hiroyuki Kawai	3405研究室（研究棟 4階）

最終学歴
関西大学大学院 心理学研究科 博士課程後期課程
兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 教育実践高度化専攻（専門職学位課程）

学位
博士（心理学）、教職修士（専門職）

主な研究活動・社会活動・研究業績

教員プロフィールを参照してください。
https://www.umds.ac.jp/academics/profile/index_ka/kawai

趣味・特技

テニス、旅行、資格取得

所属

商学部経営学科

所属学会

日本商業教育学会、日本経済教育学会、日本キャリア教育学会、秘書サービス接遇教育学会

専門分野

高等学校商業教育、職業教育
キャリア教育、高大接続・連携

担当科目

商業科教育法、生徒・進路指導論、職業指導、授業におけるICTの活用、キャリアビジネス論、専門基礎演習、研究演習、研究演習、卒業研究

備考

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
元高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践をしてきた。それらの知見や経験を生かし、高校や地域など学外の様々な機関との連携により、アクティブ・ラーニングを取り入れたゼミ運営を行っている。